

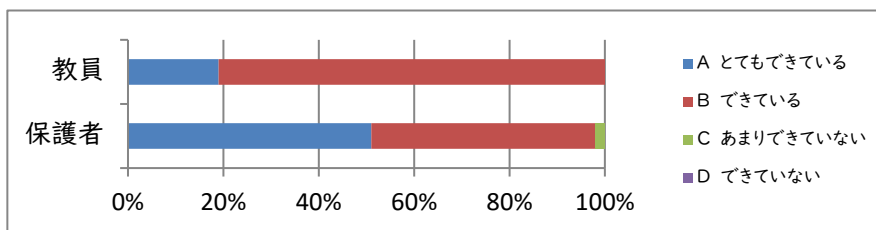
令和5年度 学校評価 アンケート集計結果

だて支援学校

回答数 教員64名 保護者101名

I 教員、保護者のアンケート集計結果

- 1 【教員】 学校経営・運営ビジョンを理解して、(学校目標や重点目標を意識して)教育活動を行っている。
 【保護者】 学校は、学校経営・運営ビジョンについてわかりやすく伝えている。

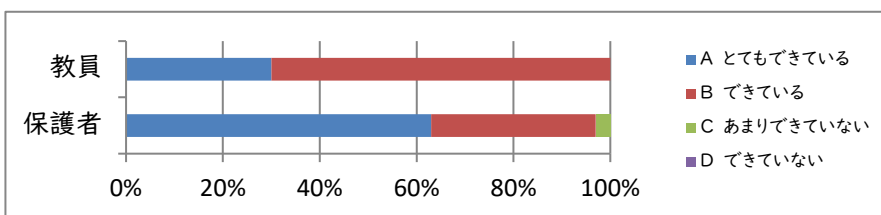


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がCと回答している。昨年度よりも教員、保護者共にAの回答が増加している。さらに教員は運営ビジョンを理解し、意識しながら様々な教育活動を行っていくようにする。保護者には、PTA総会や懇談等をとおして、より分かりやすく伝えていきたい。

- 2 【教員】 各教科の学習評価の充実を図るために個別の指導計画の様式を改善し、児童生徒がわかる学習評価になるように通知票で伝えている。

- 【保護者】 学校は、各教科の学習評価の充実を図るために個別の指導計画の様式を改善し、児童生徒がわかる学習評価になるように通知票で伝えている。

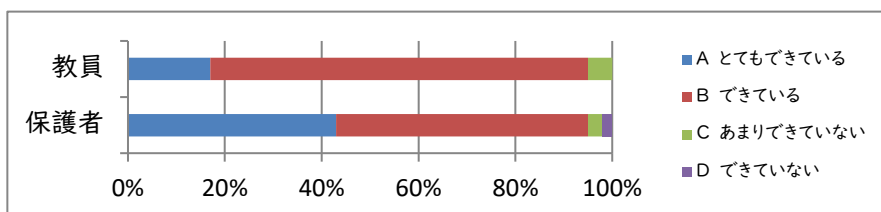


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がCと回答している。今年度から全学部で児童生徒が「できるようになったこと」「自分の努力したこと」がわかるような通知票の様式に変更した。このことについて保護者からは一定の評価は得られたと考える。今後、より児童生徒に伝わる内容の通知票を目指すとともに、保護者にも、個別懇談等をとおして個別の指導計画についての丁寧な説明を続けていきたい。

- 3 【教員】 ICTを活用した授業を行えるよう環境の充実を図っている。

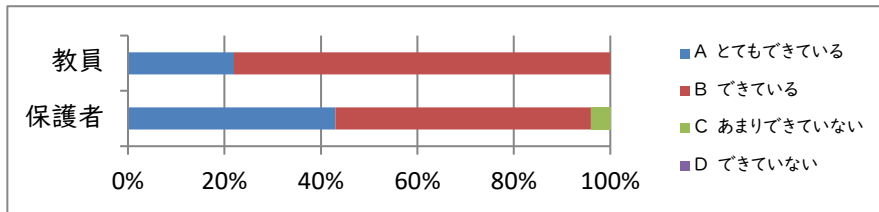
- 【保護者】 学校は、ICTを活用した授業を行えるよう環境の充実を図っている。



<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。教員はA、Bの割合が全項目の中で一番低い。保護者もDの割合が全項目の中で一番高い。教員から「環境が十分でない。」「自分の技能が課題。」「研修の機会が必要。」の記述があった。高等部でも来年度から生徒全員が自分のタブレット端末等を持つようになる。学校での環境整備をさらに進めていきたい。タブレット端末等を使用した授業を実践してはいるが、より子どもたちが「分かる」授業実践に結び付くような研修の機会を設定することが必要である。また、ホームページや懇談を活用して、その内容を保護者に十分に伝えていきたい。

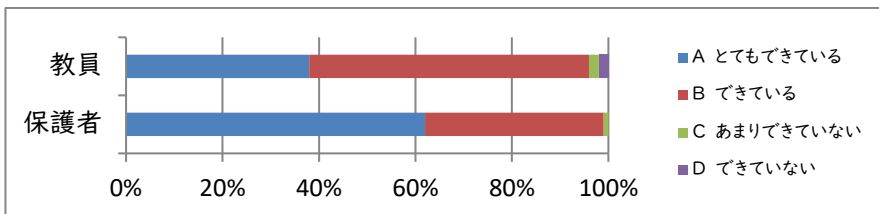
- 4【教員】 校内研修を通して「資質・能力の育成に向き合う授業づくり」に取り組んでいる。
 【保護者】 学校は、校内研修で「資質能力の育成に向き合う授業づくり」に取り組んでいる。



<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がCと回答している。今年度、グループごとに授業づくりを中心に校内研修を実践した。ある程度の成果は上げられたと考えるが、まだまだ、試行錯誤の日々である。より計画的に資質・能力の育成に向けて授業実践をしていく必要がある。また、保護者からは「内容がよくわからない。」との記述があったことから、実践を伝えられていないと考える。具体的に研修の様子や授業についてホームページ等で積極的に発信していきたい。

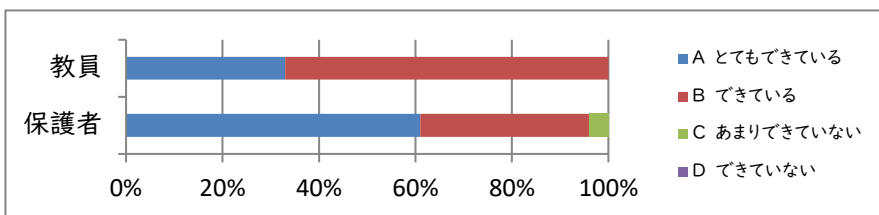
- 5【教員】 やさしい心と思いやりを持ち、元気にあいさつができるようにしている。
 【保護者】 学校は、やさしい心と思いやりを持ち、元気にあいさつができるように指導している。



<分析>

教員、保護者ともほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、D、保護者がCと回答している。特に教員は全質問項目の中でDと回答した割合が一番高い。保護者は全質問項目の中でA、Bと回答している割合が一番高い。教員からは「教員が共通理解を図り取り組む必要がある。」との記述があった。相手に伝わるあいさつを意識し、教員が自ら手本となる実践を心がけていくことが大切であると考え。特別の教科 道徳での授業を始め、学校活動全体で取り組んでいきたい。

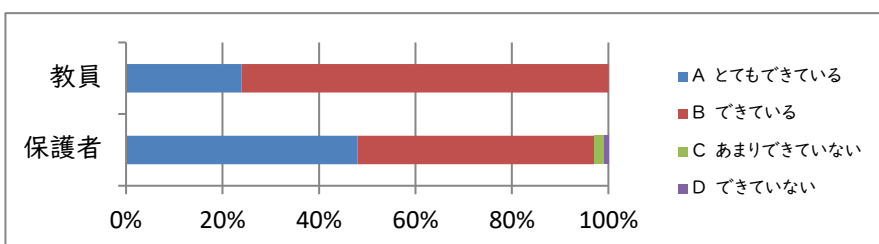
- 6【教員】 生活に生かせる保健指導の情報提供（掲示、保健だより等）を行っている。
 【保護者】 学校は、生活に生かせる保健指導の情報（掲示、保健だより等）を提供している。



<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がCと回答している。保健室前に季節ごとに内容を工夫して掲示したり、保健だよりを月1回発行したりすることについての理解が得られたと考えられる。児童生徒にわかりやすく伝える工夫をするとともに、より保護者の必要としている情報を提供していきたい。

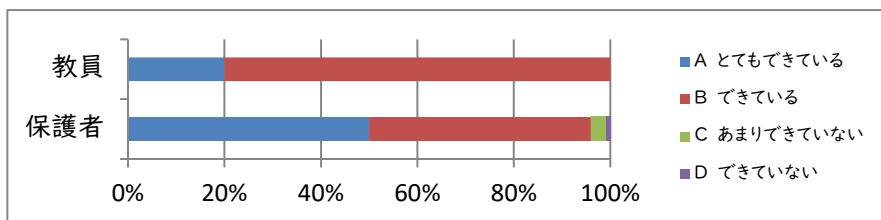
- 7【教員】 キャリア・パスポートの活用を含め、進路に関する情報提供に努め、児童・生徒一人一人に応じたキャリア教育を推進している。
 【保護者】 学校は、キャリア・パスポートの活用の仕方を含め、進路の情報提供に努め、児童生徒一人一人に応じたキャリア教育を推進している。



<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がC、Dと回答している。昨年度途中に作成された「キャリア・パスポート」「進路ガイドブック」について教員は活用し始めているが、保護者への浸透がまだ十分ではないと考えられる。個別懇談等を活用して、さらに保護者の理解へ向けた取り組みを進めていくようにしたい。今年度も保護者の意見を取り入れつつ「進路座談会」や「進路研修会」を実施した。今後さらに、参加者を増やせるように魅力ある工夫をし、実施していきたい。

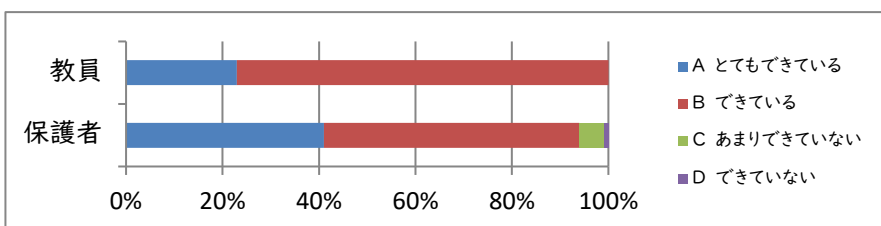
- 8【教員】 学校と家庭・地域をつなぎ、児童生徒の教育活動への援助・充実を図っている。
【保護者】 学校は、家庭・地域をつなぎ、必要な教育活動への援助・充実を図っている。



<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がC、Dと回答している。保護者から「もっと保護者との連携を密にはかるべき。」という記述があり、連絡帳や学級だより、ホームページや会報等で日々の学習の様子を伝えるとともに、「子どもを中心に」保護者と地域との一層の連携を図り、教育活動への理解と協力を得られるようにしていきたい。

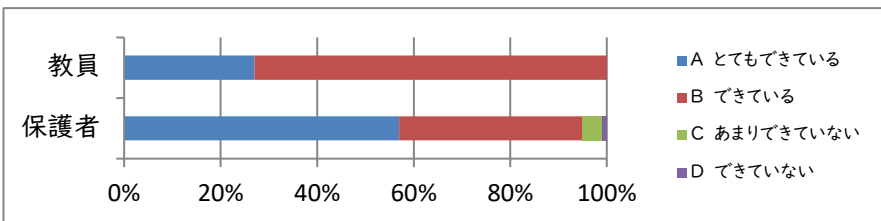
- 9【教員】 地域における相談・支援の充実及びホームページなどを活用した積極的な情報発信を行っている。
【保護者】 学校は、地域における相談支援の充実及びホームページなどを使った積極的な情報発信を行っている。



<分析>

教員は全員がA、Bと回答しているが、保護者は全質問項目中の中でC、Dと回答している割合が一番高い。保護者からも「少ない。」「足りない。」との記述があった。開校2年目になり伊達市・伊達郡内の学校及び行政との連携も進んでいる。しかし、ホームページ等で伝えられる内容も限られた範囲になり、結果的に情報発信が少なくなってしまうことは否めない。保護者の理解が得られるように情報発信の方法や内容の工夫をしていきたい。

- 10【教員】 学校は、安全な環境を整え、防災教育を行っている。
【保護者】 学校は、安全な環境を整え、防災教育を行っている。

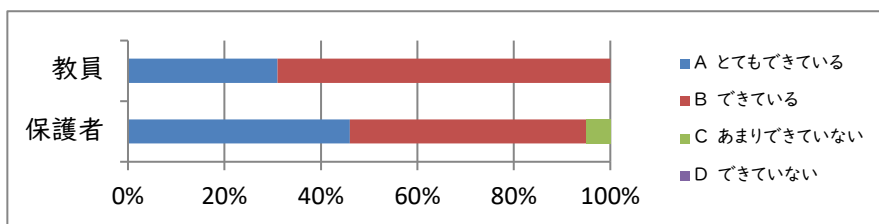


<分析>

教員は全員がA、Bと回答、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がC、Dと回答している。今年度から校庭が使用できるようになり、避難訓練では、校庭へ避難する場合の訓練も行われた。緊急時引き渡し訓練も、昨年度同様行われたが、今後、実際に引き渡しを伴う訓練も必要になってくると考える。また、保護者から「子供の安全意識を高めるより、教員が安全に避難させられるかだと思う。」との記述があり、児童生徒が自分の身を守る方法について考えることも大切であるが、さらに教員一人一人が危機管理意識を高め、考えるようにしていきたい。

11 【教 員】 新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、学習活動を行っている。

【保護者】 学校は、新型コロナウイルス感染症における基本的な感染症対策を徹底して、学習活動を行っている。

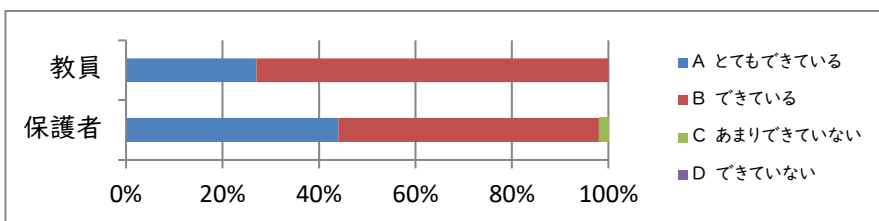


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者はほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者はCと回答している。新型コロナウイルス感染症が昨年5月から5類感染症となり、マスクの着用が義務化で無くなるなど対策が変更になった点もあり、保護者からは「コロナに慣れてきたのか、それほど徹底しているようには思えない。」「感染症はコロナだけではない。」などの記述があった。手指の消毒や換気など対策をしてきたが、その時々感染症の状況により、対応していきたい。

12 【教 員】 伊達地域で共に学び共に生きることを目標とした交流活動を行っている。

【保護者】 学校は、伊達地域で共に学び共に生きることを目標とした交流活動を行っている。

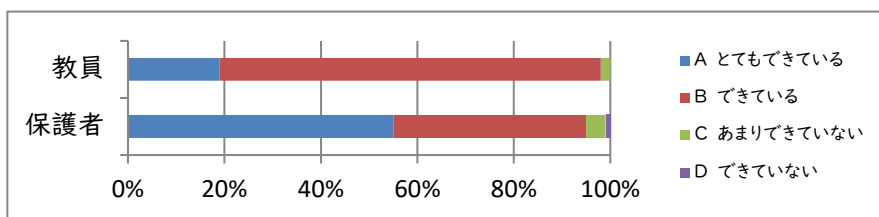


<分析>

教員は全員がA、Bと回答し、保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の保護者がCと回答している。今年度から全学で伊達市内の学校との交流活動が始まった。また、中学部・高等部の地域施設における清掃活動やスポーツ交流も行われ、児童生徒が多様な体験をする場となった。それらが保護者に十分に伝わっていない面もあり、ホームページ等を利用して教育活動への理解を深めていきたい。また、保護者から「今年から始めたばかりで、これから期待したい。」との記述があり、今後より充実した交流活動になるように考えていきたい。

13 【教 員】 教科指導の充実に努めている。

【保護者】 学校は、教科指導の充実に努めている。



<分析>

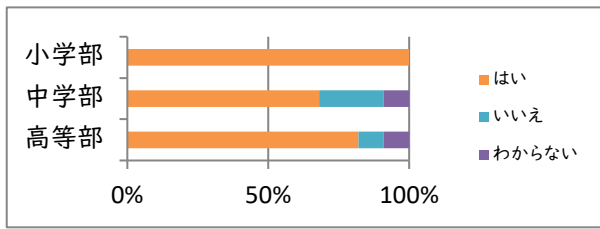
教員も保護者もほぼA、Bと回答しているが、一部の教員がC、保護者がC、Dと回答している。教員からは「目標を明確にすることが必要」、保護者からは「教科に取り組む時間が少ない。」との記述があった。さらなる、目標の明確化、目標達成のための教材の工夫、授業の充実に目指し、校内研修等ともリンクさせながら取り組んでいかなければならない。また、保護者に実際に来校し見ていただく機会や学校だより、ホームページ等での発信を増やしていきたい。

II 児童生徒のアンケート集計結果

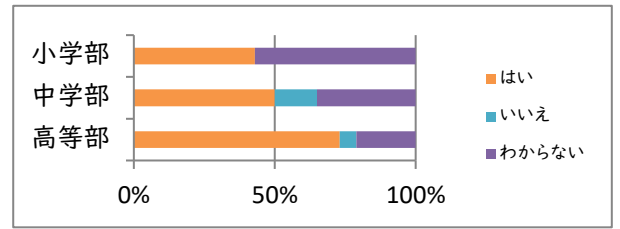
小学部:7名

中学部:26名 高等部:34名

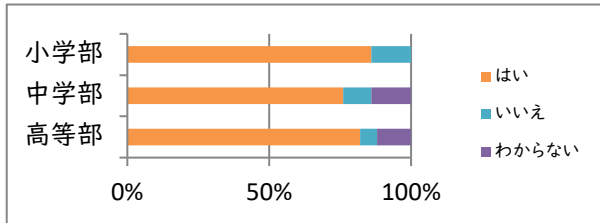
1 学校は楽しいですか。



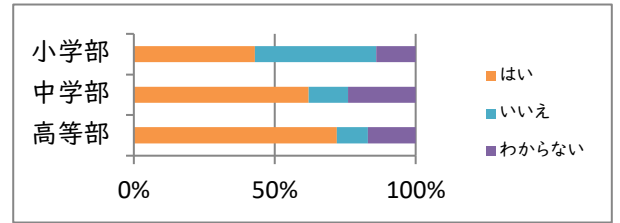
2 通知票はわかりやすいですか。



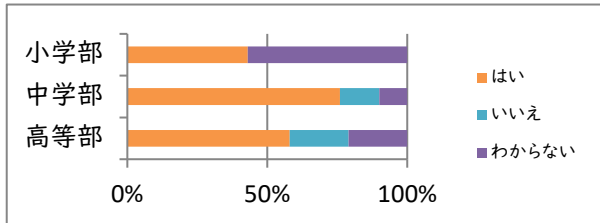
3 授業はわかりやすいですか。



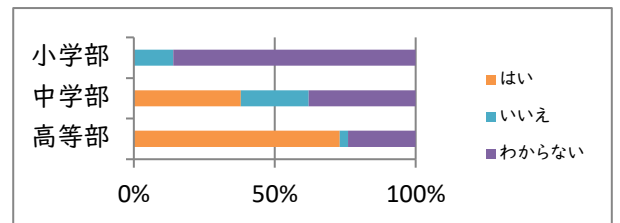
4 授業でわからないことは、先生に質問していますか。



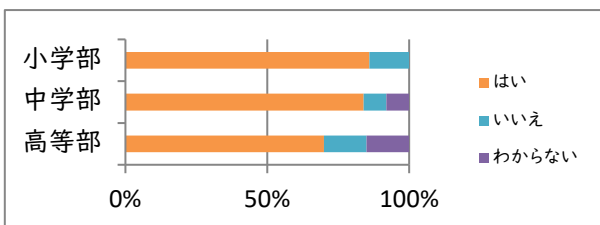
5 授業の中でパソコンやタブレットを使った学習をすることが多くありますか。



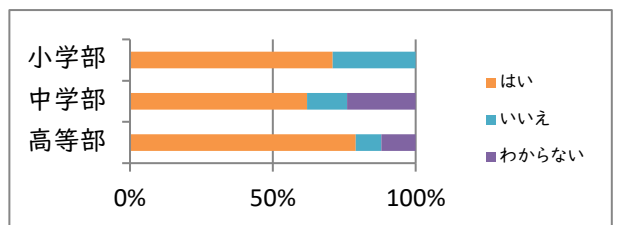
6 進路についてわかりやすく学習する機会がありますか。



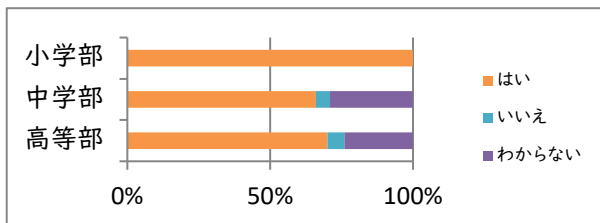
7 元気にあいさつをしていますか。



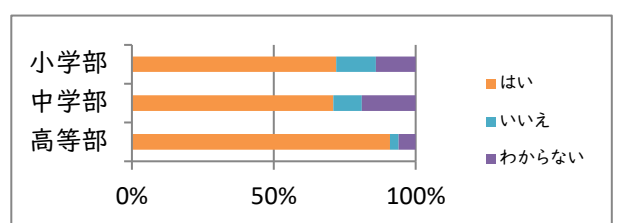
8 困ったときや、悩んだときに相談できる先生はいますか。



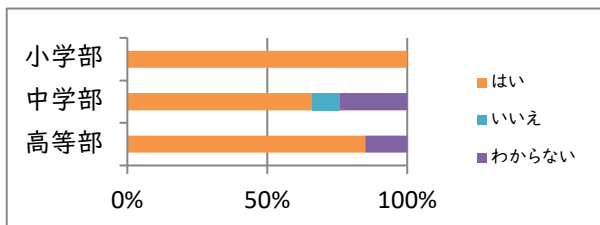
9 自分の思いや考えを話し合える友達はいますか。



10 避難訓練では先生の話聞き、安全に避難することを理解しましたか。



11 学校は、手洗い、うがい、消毒、換気などの新型コロナウイルス感染症対策を行っていることを知っていますか。



<分析>

○学校が楽しいと小学部の児童は全員答えているが、通知表が分かりやすいかの質問に「はい」と答えているのは小学部の児童・中学部の生徒では半数以下にとどまる。通知表の内容について分かりやすいものになっているか検証が必要である。授業が分かりやすいかの質問には小学部の児童の86%が「はい」と回答し、中学部・高等部の生徒より高い。また、わからないことを先生に質問しているかとの質問には小学部の児童の43%が「いいえ」と回答し、中学部・高等部の生徒よりも高い。わからないような時に、教員から質問したり、児童・生徒から話したりしやすい環境作りを心掛けたい。

○小学部ではパソコンやタブレットを使った授業が多いと回答している児童が半数以下となっている。小学部の児童・中学部の生徒は一人1台タブレット端末が使えるようになっている。高等部でも環境整備が整いつつある。より分かりやすい授業をするために、パソコンやタブレット端末等の活用法を研修していきたい。

○進路の学習についての質問では、小学部の児童は「はい」の回答が0%、中学部の生徒は半数以下となっている。高等部の生徒は70%が「はい」と回答しているが、様々な学習会等を実施している状況から考えると少ないと考える。全学部とも学習はしているが、それを進路の学習として意識していないように感じられる。児童生徒が意識できるように、「キャリア・パスポート」「進路だより」などを活用しながら日々の授業でのキャリア教育の充実を図りたい。

○あいさつについては、全学部で「いいえ」や「わからない」と一部の児童・生徒が回答している。繰り返し、根気強くあいさつの大切さを伝えるとともに、元気にあいさつをしている時には、そのことを児童・生徒に伝えるようにしていきたい。

○困ったときや悩んだときに教員に相談はできているようであるが、より相談しやすい関係づくりを心掛けたい。また、中学部・高等部の生徒にとっては学校は友達との関係づくりを学ぶ場でもあり、教員は見守りつつ支援をしていくことが大切であると考えられる。

○避難訓練では「話を聞き、安全に避難することを理解している」の質問に、「いいえ」と回答している児童・生徒が全学部にいる。事前・事後学習を含めて、児童生徒に分かるような手立ての工夫が必要である。

○感染症対策については、引き続き伝え実践していくことが必要である。

12 「どんな勉強をしたいですか」「どんな授業を受けたいですか」

<分析>

小学部では国語、算数、体育や図画工作の教科の記述があった。中学部では国語や数学をはじめ、幅広い教科の学習に対する記述があった。外部講師を望む記述や「楽しい勉強がしたい」というような記述もあった。高等部ではより難しい内容、学習したことがない内容を希望する記述があった。また、高等部全員での校外学習を希望する記述もあった。

校内研修への取り組みと関連付け、教員一人一人の教科指導力の向上を図り、児童生徒の希望に応えたい。また、より楽しく分かりやすい授業にするための授業研究を深めていきたい。

13 「どんな学校にしたいですか。」

<分析>

「あかるい学校」「楽しい学校」「にこにこえがおな学校」「勉強ができる学校」「やさしい学校」「あいさつする学校」「心に残る学校」「進化を続けていく学校」等、たくさんの記述があった。児童生徒の学校生活への思いを受け止め、期待に応えられるように、毎日の授業を大切に、日々の学校生活が充実するように努力していきたい。

III まとめ

ほとんどの項目で、教員、保護者の評価がA、Bの回答であることから、学校経営・運営ビジョンについて概ね達成されていると評価されたと思われる。より伝わりやすい文言による学校経営・運営ビジョンの提示を検討していきたい。

教員の評価から、ICTを活用した授業の工夫、やさしさや思いやりを持ちあいさつができること、教科指導の充実が課題と考えられるので、校内での研修や外部講師による研修会を増やすなど計画的、組織的に進めていきたい。

保護者の評価から、ICTを活用した授業、進路情報の提供・キャリア教育の推進、家庭との連携、相談支援の充実及びその周知、防災教育、教科指導の充実が課題と考えられる。今年度、「だてっこみらいフェスティバル」を初開催したり、地域の学校や団体との交流を始めたりし、その様子をホームページ等でも発信してきた。しかし、保護者から「ホームページの更新頻度をあげてほしい。」との要望もあることから、学校の実践を知ってもらうために、さらにホームページやその他の発信方法を工夫していくことが必要だと思われる。

児童生徒のアンケート結果から、子どもたちの学校への期待に応えられるように、保護者、関係機関と連携しながら、児童生徒の思いに寄り添い、学びへの思いを支援していきたい。